

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の趣旨

広島市では、平成17年度（2005年度）に、子育て支援施策を総合的に推進するため、「子どもの自立をはぐくみ、子どもの笑顔のみえるまち“ひろしま”の実現」を基本理念として掲げる「広島市新児童育成計画」を策定しました。

この計画に基づいて、妊婦・乳幼児健康診査等母子保健医療体制の充実、発達障害者支援センターの設置など、子どもが健やかに育つための支援を行うとともに、学校教育や地域における体験活動の充実、電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりの推進など、子どもが豊かな子ども時代を過ごせるための取組を進めてきました。また、各区への常設オープンスペース設置の推進、保育園の整備、認定こども園設置の促進、一時預かりや病児・病後児保育等多様な保育サービスの充実、児童虐待防止対策の推進など、子育て家庭に対する様々な支援施策に取り組むとともに、公共施設等のバリアフリー化、「子ども安全の日」の取組など、安全・安心に過ごせるまちづくりのための取組を進めてきました。

しかしながら、核家族化の進展、地域のつながりの弱体化などにより、家庭や地域の子育て力が低下するとともに、情報機器の普及、有害情報の氾濫、所得格差の拡大など、子どもを巡る環境が大きく変化する中、児童虐待やいじめの増加、子どもが被害者となる犯罪の多発などの子どもの人権にかかわる問題、子どもの貧困の問題が顕在化しています。

また、我が国においては、合計特殊出生率の低下傾向が続いており、平成17年（2005年）には過去最低の1.26となりました。その後、上昇に転じ、平成20年（2008年）には1.37となりましたが、人口が安定的に維持できる水準を大きく下回っている状況に変わりはなく、本市においても、ほぼ同様の傾向にあります。少子化の背景には、結婚や出産に対する価値観の変化、子育てと仕事が調和する環境整備の遅れ、子育てに対する親の負担感の増大などの問題があります。

これらの問題に対応するためには、子育てを家庭の責任としてきたこれまでの考え方から社会全体で子どもを育てるという考え方へと転換し、すべての子どもとその家庭を支援するための施策を展開していく必要があります。そのため、平成21年度（2009年度）に「広島市新児童育成計画」の計画期間が満了するに当たり、新たな計画として「広島市子ども施策総合計画」を策定するものです。

2 計画の位置付け

- (1) 「第5次広島市基本計画」の部門計画として位置付けます。
- (2) 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画（保育計画^(注1)、保育所における質の向上のためのアクションプログラム^(注2)及び母子保健計画^(注3)を含む。）として位置付けます。

注1：児童福祉法第56条の8に規定する保育の実施への需要が増大している市町村（前年度（平成21年度（2009年度）の4月1日における待機児童の数が50人以上いる市町村）が策定することとされている保育と子育て支援事業の供給体制の確保に関する計画

注2：「新待機児童ゼロ作戦（平成21年（2009年）2月）」の中で、国及び地方公共団体が策定することとされた保育の質の向上の一層の推進のために取り組む施策に関する総合的なプログラム

注3：21世紀における母子保健の国民運動計画である「健やか親子21（平成12年（2000年）策定）」の趣旨を踏まえ、母子の健康や生活環境の向上を図るために策定する計画

3 計画の対象

すべての子ども（概ね18歳未満）並びに子どもを育て又は育てようとする家庭、地域住民及び団体、事業者、行政など市内のすべての個人並びに団体を対象とします。

4 計画の期間

平成22年度（2010年度）から平成26年度（2014年度）までの5年間とします。

5 子どもと子育て家庭を取り巻く現況

(1) 人口の推移

広島市の総人口は、平成17年（2005年）の115万4千人から平成32年（2020年）には、117万9千人になるものと予測されます。

年齢階層別人口は、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加すると予測されます。

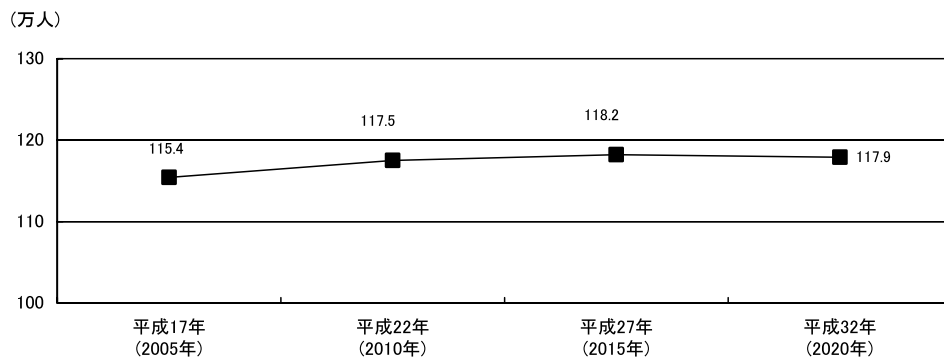


図1 総人口

●総人口（万人）

（第5次広島市基本計画）

区分	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)
広島市	115.4	117.5	118.2	117.9

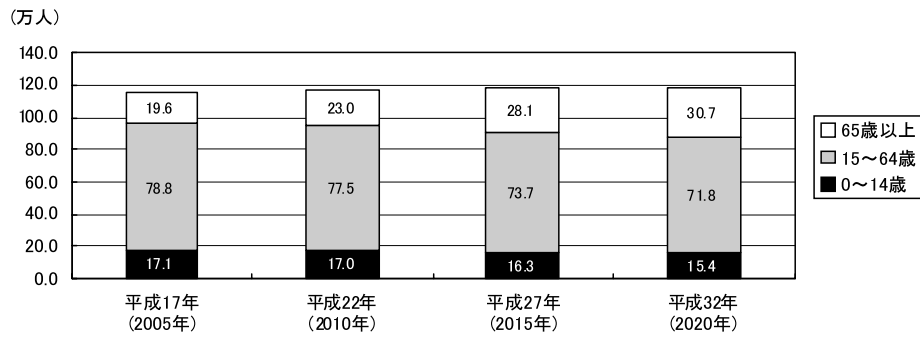


図2 年齢階層別人口

●年齢階層別人口 (万人) (第5次広島市基本計画)

区分	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)
0~14歳	17.1 (14.8%)	17.0 (14.5%)	16.3 (13.8%)	15.4 (13.1%)
15~64歳	78.8 (68.2%)	77.5 (66.0%)	73.7 (62.4%)	71.8 (60.9%)
65歳以上	19.6 (17.0%)	23.0 (19.6%)	28.1 (23.8%)	30.7 (26.1%)
合計	115.4 (100.0%)	117.5 (100.0%)	118.2 (100.0%)	117.9 (100.0%)

※平成17年 (2005年)は国勢調査の結果による。また、各年の基準は10月1日である。

※()内の数値は構成比である。

※表示の単位未満は、四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

(2) 世帯数

一般世帯数 (施設等の世帯を除く世帯数) は、平成17年 (2005年) の48万7千世帯から平成32年 (2020年) には51万8千世帯になるものと予測されます。

平均世帯人員は、平成22年 (2010年) 以降横ばい状態と予測されます。

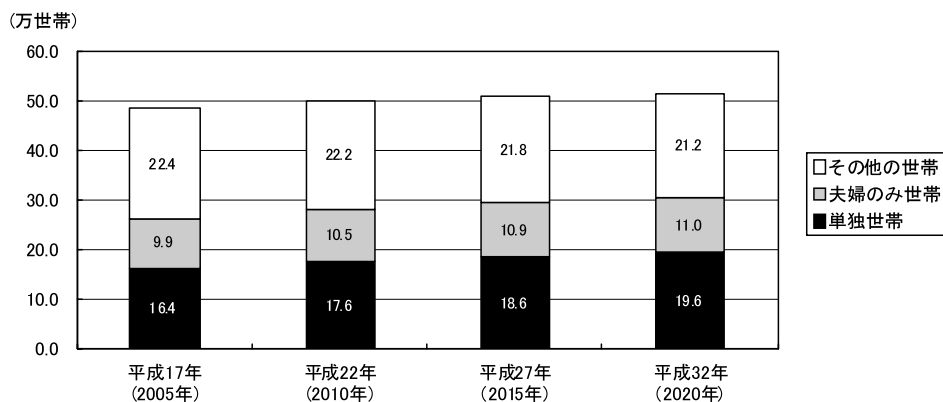


図3 世帯数

●世帯数と平均世帯人員（万世帯、人）

（第5次広島市基本計画）

区 分	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)
一般世帯	48.7	50.4	51.3	51.8
単独世帯	16.4	17.6	18.6	19.6
夫婦のみ世帯	9.9	10.5	10.9	11.0
その他の世帯	22.4	22.2	21.8	21.2
総人口を一般世帯数で除 した場合の平均世帯人員	2.4	2.3	2.3	2.3

※平成17年（2005年）は国勢調査の結果による。また、各年の基準は10月1日である。
※表示の単位未満は、四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

(3) 出生数

広島市の出生数は、昭和49年（1974年）の16,494人をピークに減少傾向にありましたが、平成17年（2005年）から平成19年（2007年）までは増加し、平成20年（2008年）に若干減少し、11,315人となっています。

合計特殊出生率^{（注）}も減少傾向にありましたが、平成18年（2006年）に上昇に転じ、平成20年（2008年）はさらに上昇し1.38となり、全国値の1.37を上回っています。

注：その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当するもの

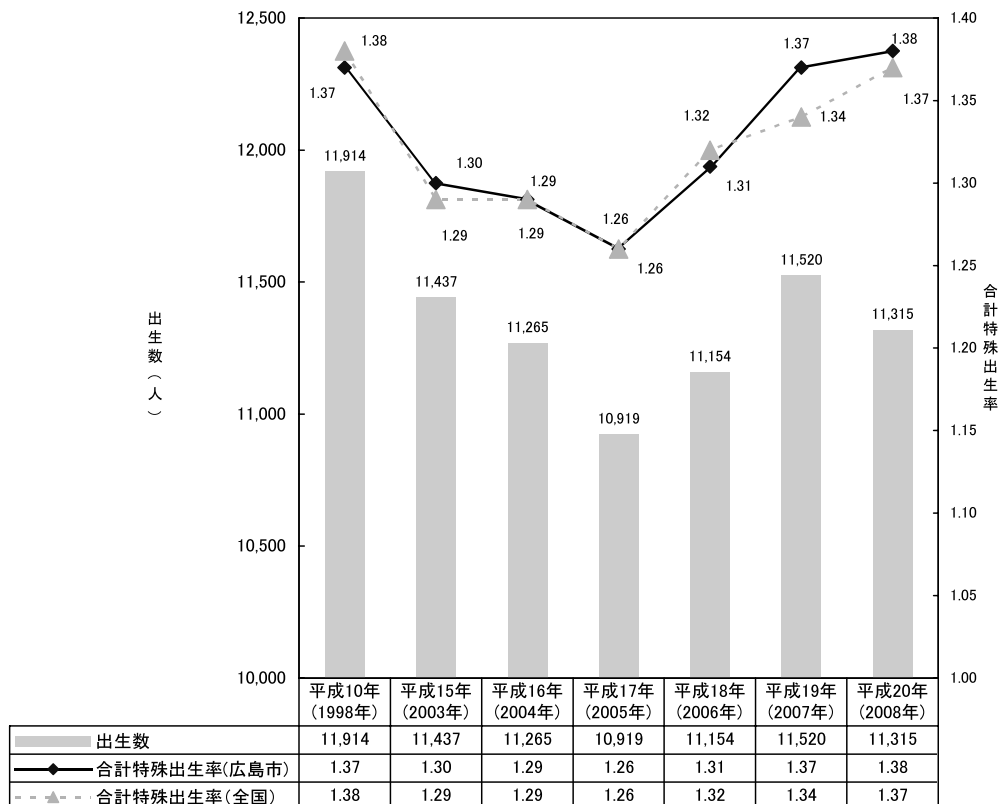


図4 出生数・合計特殊出生率の推移

(4) 婚姻と離婚率

ア 婚姻・離婚

広島市の平成20年（2008年）の婚姻率は、6.4となっており、全国の5.8より高くなっていますが、離婚率は、2.0で全国と同じになっています。

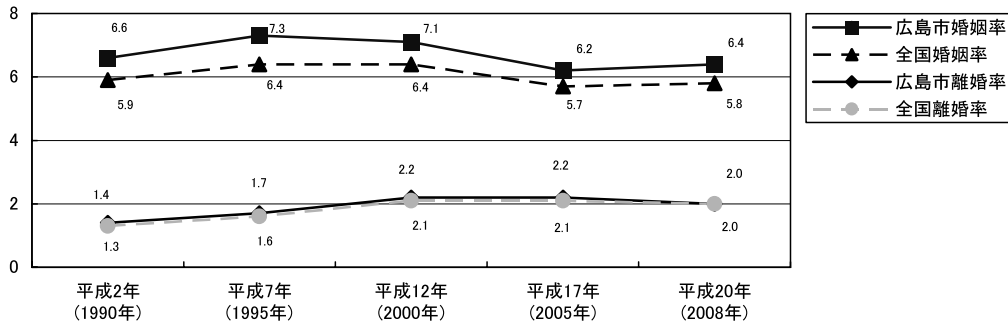


図5 婚姻率と離婚率の推移

● 婚姻率の推移（人口千対）

（人口動態統計）

区分	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成20年 (2008年)
広島市	6.6	7.3	7.1	6.2	6.4
全国	5.9	6.4	6.4	5.7	5.8

● 離婚率の推移（人口千対）

（人口動態統計）

区分	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成20年 (2008年)
広島市	1.4	1.7	2.2	2.2	2.0
全国	1.3	1.6	2.1	2.1	2.0

イ 未婚率

未婚率は男女ともに近年上昇傾向にあり、25～29歳、30～34歳の年齢階級で見ると、広島市の男性は、全国より低くなっていますが、女性は全国とほぼ同水準になっています。

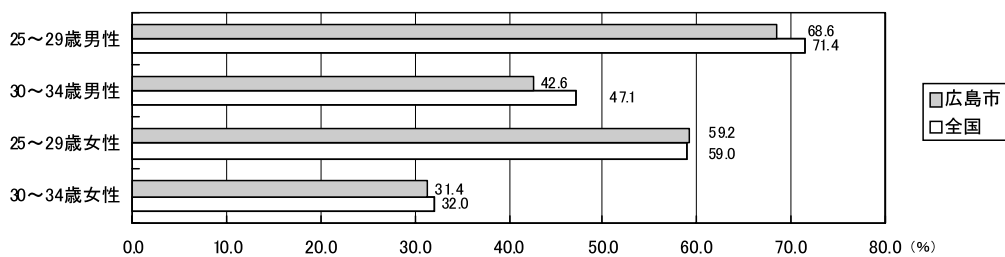


図6 未婚率

●男女の未婚率（％）

（平成17年（2005年）国勢調査）

区 分	男 性		女 性	
	25～29歳	30～34歳	25～29歳	30～34歳
広島市	68.6	42.6	59.2	31.4
全 国	71.4	47.1	59.0	32.0

ウ 初婚年齢

広島市の平成20年（2008年）の男性初婚年齢29.9歳は、全国平均30.2歳を下回っています。女性の平均初婚年齢28.3歳は、全国の28.5歳をわずかに下回っています。

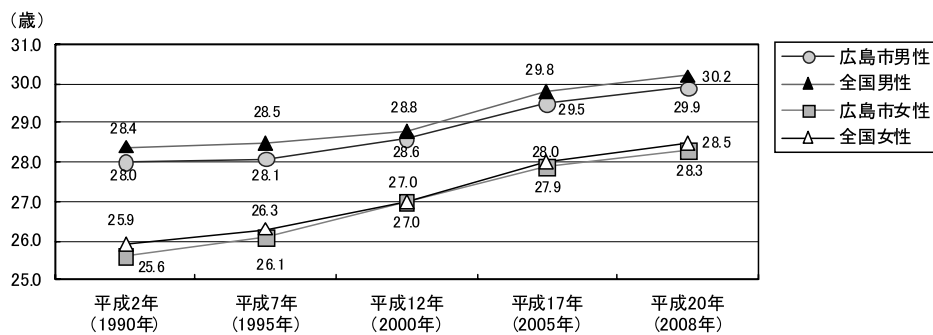


図7 初婚年齢の推移

●男性の初婚年齢の推移（歳）

（人口動態統計）

区 分	平成2年 （1990年）	平成7年 （1995年）	平成12年 （2000年）	平成17年 （2005年）	平成20年 （2008年）
広島市	28.0	28.1	28.6	29.5	29.9
全 国	28.4	28.5	28.8	29.8	30.2

●女性の初婚年齢の推移（歳）

（人口動態統計）

区 分	平成2年 （1990年）	平成7年 （1995年）	平成12年 （2000年）	平成17年 （2005年）	平成20年 （2008年）
広島市	25.6	26.1	27.0	27.9	28.3
全 国	25.9	26.3	27.0	28.0	28.5

(5) 年齢階層別の労働力率

広島市の年齢階層別の労働力率は、男性では台形を描いているのに対し、女性はM字型になっており、女性が結婚や出産、子育てのために、一旦仕事をやめ、子育てが一段落した後に再び仕事に就いている状況を示しています。なお、M字のくぼみは小さくなってきています。

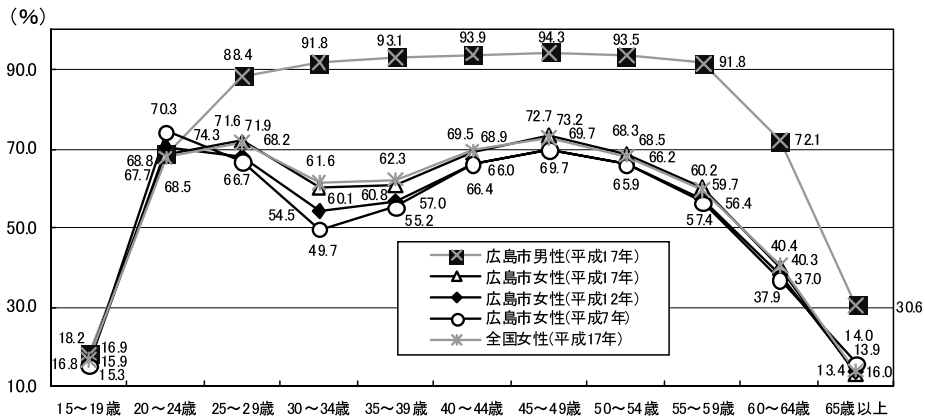


図8 年齢階層別の労働力率の推移

年齢階層別の労働力の推移(%)

(国勢調査)

区分	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
広島市男性(平成17年) (2005年)	18.2	68.8	88.4	91.8	93.1	93.9	94.3	93.5	91.8	72.1	30.6
広島市女性(平成17年) (2005年)	16.9	68.5	71.9	60.1	60.8	68.9	73.2	68.5	60.2	40.3	13.4
広島市女性(平成12年) (2000年)	15.9	70.3	68.2	54.5	57.0	66.4	69.7	66.2	57.4	37.9	13.9
広島市女性(平成7年) (1995年)	15.3	74.3	66.7	49.7	55.2	66.0	69.7	65.9	56.4	37.0	16.0
全国女性(平成17年) (2005年)	16.8	67.7	71.6	61.6	62.3	69.5	72.7	68.3	59.7	40.4	14.0

(6) 子どもや子育て家庭

【妊娠・出産期】

ア 高齢出産

広島市の35歳以上の出産の率は、平成16年(2004年)は13.9%でしたが、年々増加し、平成20年(2008年)は19.7%となっています。

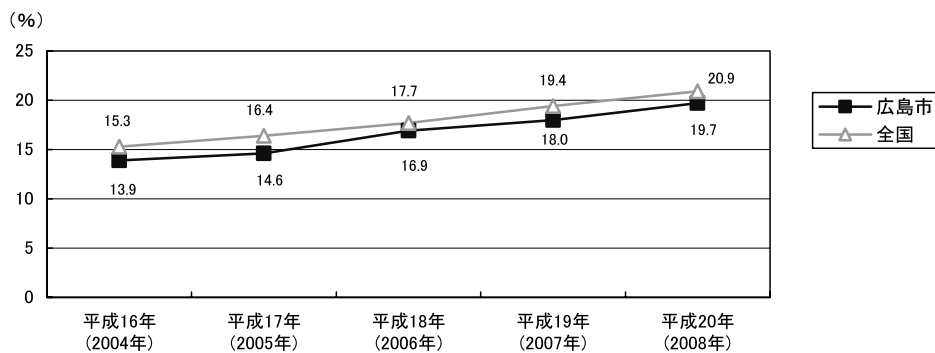


図9 高齢出産率